

姉妹都市提携5周年

# 堀尾氏が繋ぐ 大口町と松江市

1



金助とその母 (八剣社)

堀尾跡公園 (豊田区)

松江城・堀尾吉晴公銅像 (松江城大手前広場)

大口町と島根県松江市は、平成27年8月29日に姉妹都市提携を結び、今年で5周年を迎えます。

松江城(島根県)を築城し松江開府の祖とされる大名・堀尾吉晴公の生誕地が大口町という縁で、両市町は、これまでさまざまな分野での交流を深めてきました。今月号では、松江市と姉妹都市提携までの経緯などを紹介します。

## 裁断橋物語

平成27年7月、国宝に指定された松江城を築いた堀尾吉晴公は大口町出身の武将です。

堀尾氏ゆかりの地にある堀尾跡公園(豊田地区)は、吉晴の子と伝えられる金助とその母の「裁断橋物語」をテーマにした、子を想う母の心を後世に伝える歴史公園になっています。



▲名古屋市熱田区の裁断橋跡

『裁断橋物語』の舞台となった戦国時代、母は戦に出陣する金助の祈願を兼ねて、熱田神宮付近(名古屋市内)の精進川(大正15年に埋め立てられ、その後、現在の新堀川となる)に架かる裁断橋から、我が子を戦地に送ったのです。しかし金助は、戦地でこの世を去ってしまいました。

我が子を失った母が、最後の別れの場となった裁断橋を、私財を投じて2度に渡って架け替えた母子の情愛の物語が、『裁断橋物語』です。

また、2度目の橋(金助の三十三回忌)を架け替えた際に擬宝珠に刻んだ息子への想いを託した文章は、日本女性三銘文として知られています。

## 大名まで登りつめた堀尾吉晴

一方、堀尾吉晴は、父泰晴とともに岩倉城の織田信安に仕えていましたが、岩倉城が織田信長に攻め落とされると牢人（浪人）となり、その後、豊臣秀吉に仕えました。

数々の重要な戦いで武功を重ねましたが、天正8年（1590）小田原北条征伐で金助を亡くします。金助を失い悲しんだ吉晴は、京都市右京区にある『妙心寺』の中に『俊厳院』（現在の春光院）を建立し、金助を手厚く弔いました。

小田原の北条氏との戦いに勝利した秀吉は、吉晴に遠江国浜松十二万石を与えました。その時吉晴



▲ 浜松城

は、徳川家康が築城した浜松城に高い石垣を積み、天守のある城へ大改修します。『普請上手』といわれた吉晴は、長浜城（滋賀県）、安土城（滋賀県）、聚楽第（京都府）などの築城にも関わったとされ、後にその集大成が松江城とその城下町に活かされます。

## 松江開府の祖

吉晴は秀吉の信頼も厚く三老の一人となり、秀吉没後も家康と有力大名との仲裁役として大きな役割を果たしました。そして、慶長5年（1600）関ヶ原の戦いの功績により、出雲・隠岐二十四万石の領主となり、水運にも便利な今の松江に城と城下町を築くことに決めます。

松江におけるまちづくりの礎を築いた吉晴を松江市では「松江開府の祖」と称され、平成25年には松江城大手前広場に吉晴の銅像が建立され

### 堀尾氏略系図

堀尾泰晴―吉晴―忠氏―忠晴  
金助



▲ 松江城遠景

ました。

吉晴亡き後、忠晴は35歳という若さで亡くなり、跡継ぎがいなかったため、堀尾氏による松江の統治は終わりを告げます。堀尾氏の次に京極氏が入りますが一代で終わり、その次に入った松平氏が幕末まで続きます。

## 昭和の松江城

昭和10年（1935）、国宝保存法で国宝に指定されましたが、昭和25年（1950）の文化財保護法の施行により国宝の指定種別が変更され、松江城の築城された年代を特定する資料が不十分として、国の重要文化財に変更されてしまいました。

## 松江物産品を紹介

オススメ



するめ糍漬3種セット  
(通常、ピリ辛、ゆず)

オススメ



えにしずくッキー

宍道湖のしじみ



かにトロ丼  
(特製たれ付き)

協力 中浦食品株式会社

近年、松江城の国宝化の機運が活発になったのは、平成19年から23年に松江で開催された松江開府400年祭の時でした。平成21年には松江市民有志により「松江城を国宝にする市民の会」が発足し、国に国宝指定を求める署名活動がおこなわれ、合計約12万名の署名を集めました。大町では『堀尾史蹟顕彰会』『丹羽ライオンズクラブ』もこの署名活動に協力しました。

### 国宝指定のカギ「祈禱札」

松江市が松江開府400年祭で盛り上がりつつも、平成24年5月21日に松江城の二の丸に所在する松



▲2012年 町制施行50周年記念 金助桜まつり「堀尾史蹟顕彰会」署名活動の様子



▲松江開府400年際 松江武者行列

江神社で、松江城創建に関わる祈禱札2枚が確認されました。これは松江城天守が完成した際に、打ち付けられたものです。

実は昭和12年（1937）に松江城天守を調査した研究者がその存在を確認し、論文に記載しましたが、祈禱札の存在は長らく不明のままでした。

祈禱札には、慶長16年（1611）正月と記載されていました。これは長年国宝指定への課題となっていた築城年代に関する資料となり、国宝指定への機運はさらに高まったのです。翌年（平成25年）に松江市指定文化財となり、平成27年7月8日、

松江城天守が国宝に指定された際には、祈禱札2枚と、昭和25年から30年の解体修理工事で確認された地鎮に関する資料が、松江城創建に関わる貴重な資料として、国宝（ついでに）指定（国宝の価値を証明、または根拠となるもので、国宝の一部になる）となりました。

### 姉妹都市提携へ

大町では1958年に設立した堀尾史蹟顕彰会が堀尾氏の菩提所・圓成寺の堀尾祭、松江神社の例大祭に毎年参加。また、丹羽ライオンズクラブは松江湖城ライオンズクラブと姉妹クラブ提携を結び、堀尾公のご縁で長年にわたり交流を重ねてきました。7月の松江城国宝化で両自治体もつながりをさらに深めようと平成27年8月29日に姉妹都市提携を結びました。

これをきっかけに、企業・行政・教育・民間レベルの交流が盛んにおこなわれることとなります。来月号は姉妹都市提携から松江市と交流が続く事業を紹介します。

### 松江物産品を紹介



きんすけくん



えびトロしゅうまい

かにトロしゅうまい



焼あご粉

あご野焼



どじょう掏いまんじゅう